

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023 年	10 月	24 日	(記入者)	三谷尚彦
取材参加者	石井	西田	三谷	宮本	本井
取材対象先	山添村：北野区腰越会所の木造不空羂索観音立像 ・ 木造阿弥陀如来坐像				

所在地	山辺郡山添村北野区 腰越会所	
所有者（取材 対応者）名	北野区（北野腰越組管理者 * **様）	連絡先 *** PCアドレス
	(個人情報守秘)	
取材申込	申込先・行政名など：山添村教育委員会	
市町村 指定文化財	彫刻 2 軀	木造不空羂索観音立像 1990(平成2)年6月29日指定 木造阿弥陀如来坐像 1991(平成3)年5月28日指定
	建造物 棟	名称（指定年月日）
文化財指定理由	不空羂索観音：全国的にも数少ない貴重な不空羂索観音像で室町後期から江戸前期の作。春日大社、興福寺との関りが伺える。阿弥陀如来：素木の寄木造りで隅々まで神経の行き届いた調和がとれた作技である。作風、特徴からみて室町時代に活躍した仏師の作と推測される。	

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	腰越会所は大広間、台所、事務室がある立派な建物で消火器も設置。敷地内に消防ポンプ器具倉庫があり消防車が来るまでは住民が一次消火にあたる。消防訓練も定期的実施される。	腰越地区の中心的建物なので地区の人たちが分担してきっちり管理している。
獣害対策	被害の有無、対策など アライグマ、鹿、猪は出没するが、今のところ被害は無い。会所玄関の上がり框の横板が一部朽ちていたがシロアリかは不明。	記入者の感想 腰越会所も観音堂も平成2年築のしっかりした建物で普段から住民に管理されているので今のところ大きな心配はなさそう。
保存～継承へ 苦労と今後の 課題と対策	この地域の一部が1991(平成3)年に完成した布目ダムのダム湖に水没するため高台移転し、現在の腰越会所も1990(平成2)年に新築移転され2軀のお像も移された。不空羂索観音立像は会所敷地内の観音堂で北野区の腰越組13軒と津越組11軒で共同でお祀りし、阿弥陀如来坐像は会所内格子戸棚の中で腰越組単独でお祀りされている。2軀のお像の由来の詳細は不明だが、それぞれ地域内で時代の変化により場所を替えて伝わったものが、今は地元の貴重な財産として厳重に施錠管理されている。年1度の不空羂索観音講の時以外は掃除以外で格子戸が開くことは無い。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）

二つの仏像は別々のところに安置されていたが、この地域が布目ダムの完成で水没することを機に、新しい会所と付属の観音堂が建てられ、同じ敷地内で祀られることになった。ほぼ同時に村の文化財指定もされた。不空羂索観音が以前に安置されていた牛ヶ峰岩屋のお堂も見たが、山中の人けもない所だった。現在は地域の中心で住民の方々に見守られて安全に管理されており、ダムの建設を機にこの2軀の仏像の保存状況は大きく前進したと感じる。

市町村指定文化財取材票《裏》①

取材日	2023 年	10 月	24 日	(記入者)	三谷尚彦
取材参加者	石井	西田	三谷	宮本	本井
取材対象先	山添村：北野区腰越会所の木造不空羅索観音立像・木造阿弥陀如来坐像				

〈写真撮影許可済〉

文化財指定名：木造不空羅索観音立像

文化財（正面写真）



文化財を安置する観音堂

文化財（角度を変えて）



以前に安置されていた場所（牛ヶ峰岩屋）の写真



文化財の由緒・説明版の有無など



所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入



全国的に数少ない不空羅索観音立像は春日大社の本地仏で興福寺の信仰が厚いとされる。昔北野杣が春日社興福寺領であった関係から、牛ヶ峰の春日社本地仏としてこの観音像がありこの造像には興福寺の背景があったものと考えられる。制作年代は室町時代後期から江戸時代前期と推定される。元は腰越観音堂にあったのが牛ヶ峰山中の春日神社境内の堂に遷されたともいわれる。1990(平成2)年に現腰越会所ができたのを機に修理がなされ新堂に移して安置されている。像高153cm。古くからの本物の鹿皮を纏っており保存もよく姿も美しい。

市町村指定文化財取材票 <裏> ②

取材日	2023 年	10 月	24 日	(記入者) 三谷尚彦	
取材参加者	石井	西田	三谷	宮本	本井
取材対象先	山添村：北野区腰越会所の木造不空羂索観音立像・木造阿弥陀如来坐像				

<写真撮影許可済>

文化財指定名：木造阿弥陀如来坐像

文化財（正面写真）



文化財（角度を変えて）



文化財指定書



腰越会所



文化財の由緒・説明版の有無など



所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

像高41cm、素木のままの寄木造りで隅々まで神経の行き届いた調和がとれた作技である。無銘だが作風、特徴からみて室町時代の仏師の作と推測される。腰越の宝泉寺本尊だったとも言われ、その後個人蔵となったが、不幸を招くと言われるようになり押入に放置された。後に地域の人々が引き受けて保守し1990(平成2)年に現腰越会所に安置された。珍しい木造狛犬は別の神社から盗難防止のためにここに移され一緒に保管されている。